

# 性的マイノリティのパートナーからの暴力（DV） 被害と相談行動に関する調査 –第一次集計分析–

---

釜野さおり・北仲千里・藤原直子

「LGBTs・IPV研究プロジェクト」メンバー：

釜野さおり（国立社会保障・人口問題研究所）北仲千里（広島大学）藤原直子（椋山女学園大学）  
立石結夏（東京第一弁護士会）鈴木朋絵（山口県弁護士会）須田布美子（札幌弁護士会）  
中川重徳（東京弁護士会）水谷陽子（東京弁護士会）森あい（熊本県弁護士会）  
三輪晃義（大阪弁護士会）加藤丈晴（札幌弁護士会）大畑泰次郎（大阪弁護士会）

共同代表：北仲千里・立石結夏 Email: [lgbtipv@ybb.ne.jp](mailto:lgbtipv@ybb.ne.jp)

---

# 問題意識

---

- ドメスティック・バイオレンス（DV）、IPV(Intimate Partner Violence) は、重大な人権問題
- DVは婚姻や親密な関係をベースとする、生活の場での人権侵害であり、加害者が被害者を支配、コントロールしながら行われる虐待
- 背景には社会のジェンダー構造があるため、「女性に対する暴力」「ジェンダーに基づく暴力」問題として取り上げられてきた。

---

**では、性的マイノリティのパートナー間のDV/IPVは？**

# 性的マイノリティのパートナー間におけるDV/IPVの現状

---

- 被害があるが、実態があまりわかっていない。  
相談機関に少し来ているようだ。（北仲, 2010）
  - マイノリティゆえに、「DV」と捉えることが難しかったり、相談しにくい、DV相談支援者からの理解も得られにくい可能性  
→ 「マイノリティ・ストレス」(Donovan and Barnes, 2018)
-

# DV被害の理論化、調査について

---

- 単に「殴られたことがあるか」というような項目によるアンケート調査  
→ その経験率を「DV被害の経験率」とすることに対する批判
- 文脈や加害者の動機・意図・被害者の解釈等を考慮すべきだという議論（渋谷 2003）（Donovan and Barnes, 2018）
- WHOの調査票：各国比較のため同一調査票  
→ ほぼ同じDV定義・質問紙での比較をすることを容易に。

---

⇒ **DV概念そのものの精緻化もしていく必要性**

# 先行研究からの示唆①

---

## ■ JohnsonによるDVの3類型

- Situational couple violence(対立が激化しているがまだ支配関係にはない)
- Intimate terrorism (相手を一方的に支配する関係性)
- Violent resistance (抵抗、報復)

■ Intimate terrorismこそが問題とされるべき状態であり、この3つを混同せずに調査でとらえることが重要である。

(Johnson, 2008)

---

## 先行研究からの示唆②

---

- サンプルの問題、時間枠（「現在」か「今までの人生で」か）の設定の違い、DVの定義の違い、サンプル数の少なさ等から、各調査を比較することにはいろいろな困難がある

(Lisa K. Waldner-Haugrudほか, 1997)

- 性的マイノリティの調査で、代表性のあるランダム・サンプリング調査はほぼ無理。 異性愛者のDV調査と比較できない？
-

## 先行研究からの示唆③

---

### □ 英国のグループ

**文脈やLGBTの状況をふまえた調査方法の採用と、  
インタビュー調査の重視**

**The Coral Project(2014)**

**(Donovan, Barnesら)**

---

## そこで、今回の調査では

---

- 「何%」という被害率を出すことを目指すのではなく、実際に性的マイノリティのパートナー間にDV 被害がありうること、その状況を少しでも把握することを目指した。（今後、インタビュー調査を実施予定）
  - 調査票の内容
    - 先行研究で指摘されている性的マイノリティのパートナー間に起きそうな具体的な行為を考慮し、さらにWHOの調査票も参考に作成。
    - ストーカー被害の項目も追加した。
-



# 「性的マイノリティのパートナーからの暴力（DV）・ストーカー被害などに関わるアンケート」の概要

---

- 調査期間 2018年5月3日～31日（6月末まで延長）
  - 調査方法 オープン型インターネット調査（サーベイモンキーを使用）
  - 調査実施広報：東京レインボープライド広報記事（立石代表のインタビュー記事）（紙、ネット）、チラシ配布（TRP、LGBTシェルターシンポ、日本女性学会他）、SNSで拡散
  - 対象者：誰でも回答可能な設計、アンケートタイトルや拡散先から主な対象は「性的マイノリティ」
  - 項目：パートナー関係（相手の性別）、IPVの被害、対処、影響（その他、同性、異性）、ストーカー被害、対処、影響、属性、SOGI
  - 回答数501 有効回答419
    - 同性パートナーをもったことのある人308人、異性パートナーをもったことのある人206人
    - その他のパートナー関係があった人25人
-

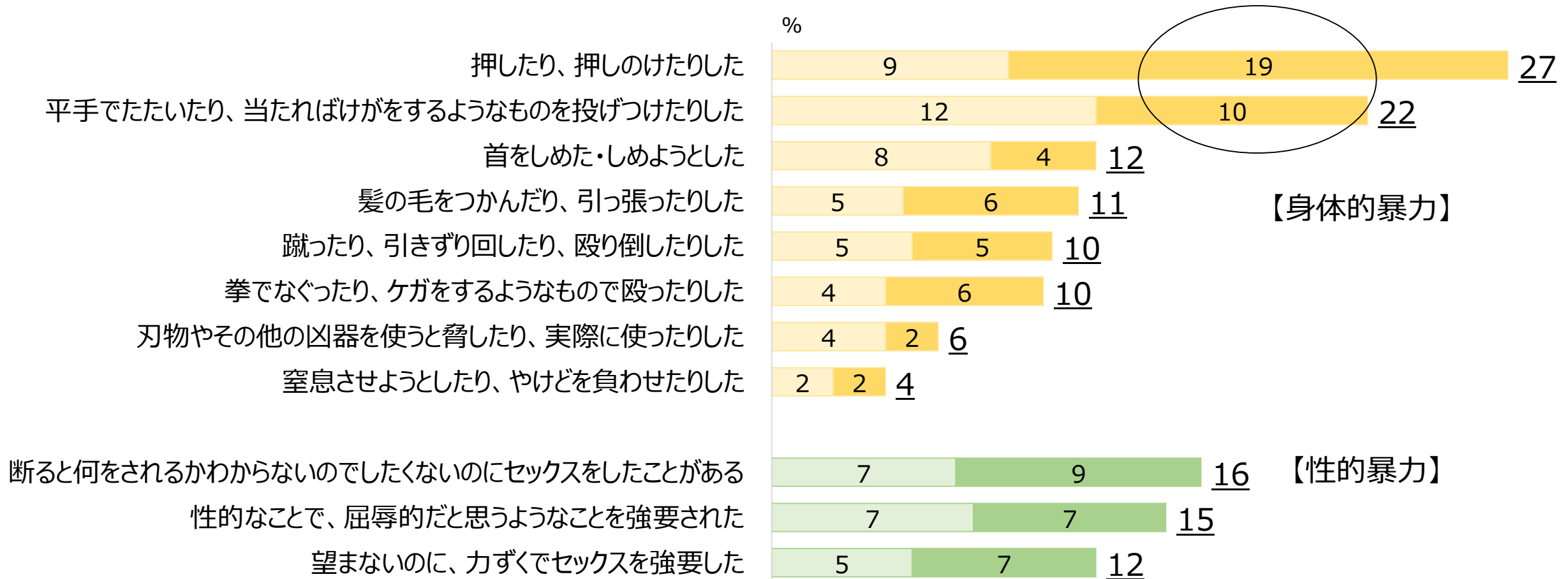
# 集計対象の説明

---

- **同性**パートナーからの行為：同性パートナーとの関係の中で受けたDVを指す（SOGIにかかわらず）
    - 同性パートナーをもったことのある人 [308人]
  
  - **異性**パートナーからの行為：シスジェンダー異性愛以外の人、異性パートナーとの関係で受けたDVを指す
    - 異性パートナーをもったことのある人 [186人]
    - 回答者の性的指向の自認が「異性愛者」で、かつ、出生時の性別と現在の性別の自認が同じ人（ここでは「シスジェンダー」という）を除外
-

# 性的マイノリティがパートナーから受けた行為

【同性パートナー】から： 【身体的暴力】 【性的暴力】



n=308

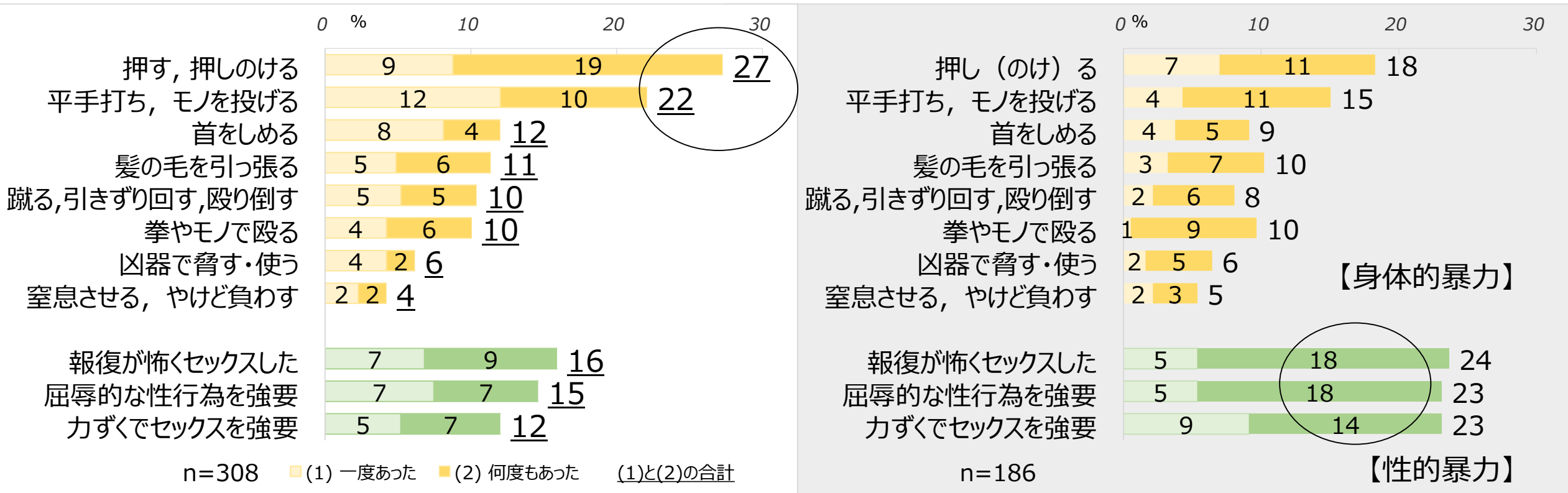
□ (1) 一度あった

■ (2) 何度もあった

□ (1)と(2)の合計

# 性的マイノリティがパートナーから受けた行為

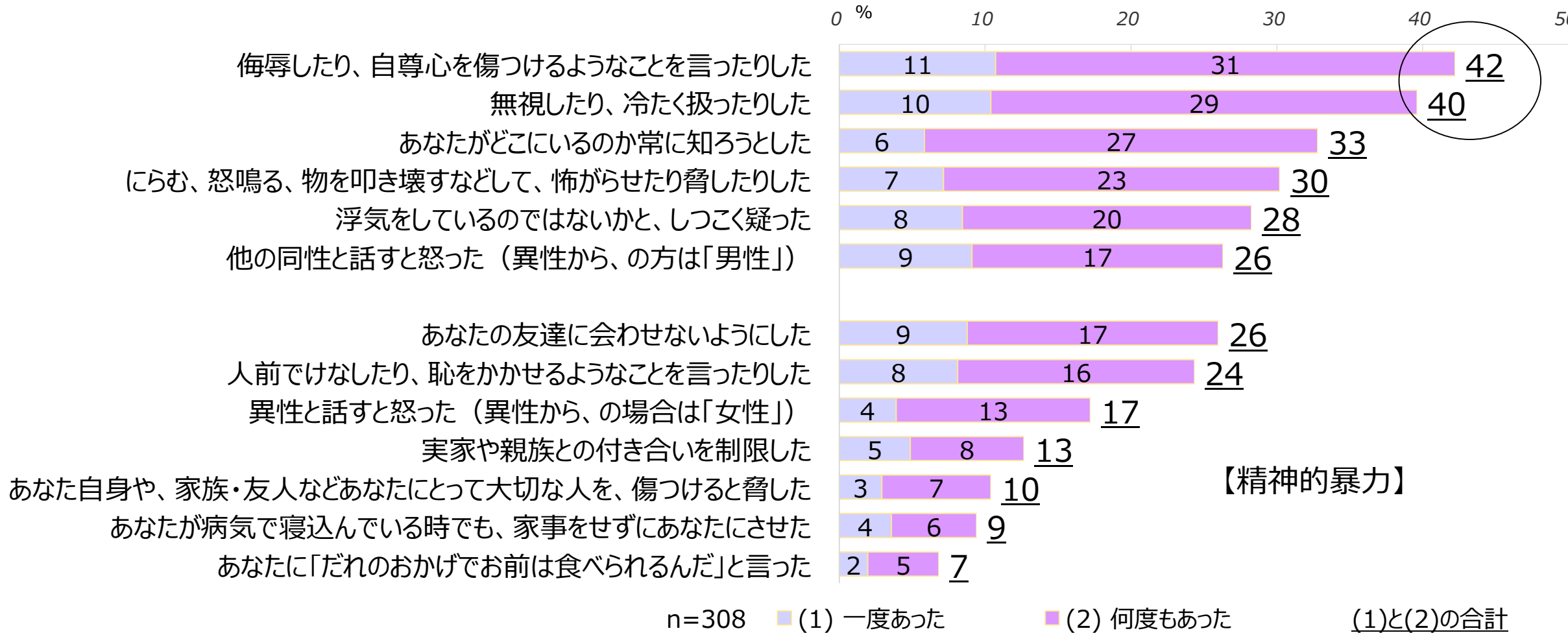
[同性パートナー] から [異性パートナー] から



同性から：押したり押しつけたりする、平手打ち/モノ投げる、が多い。  
 異性から：【性的暴力】が多い … **4人に1人**

# 性的マイノリティがパートナーから受けた行為

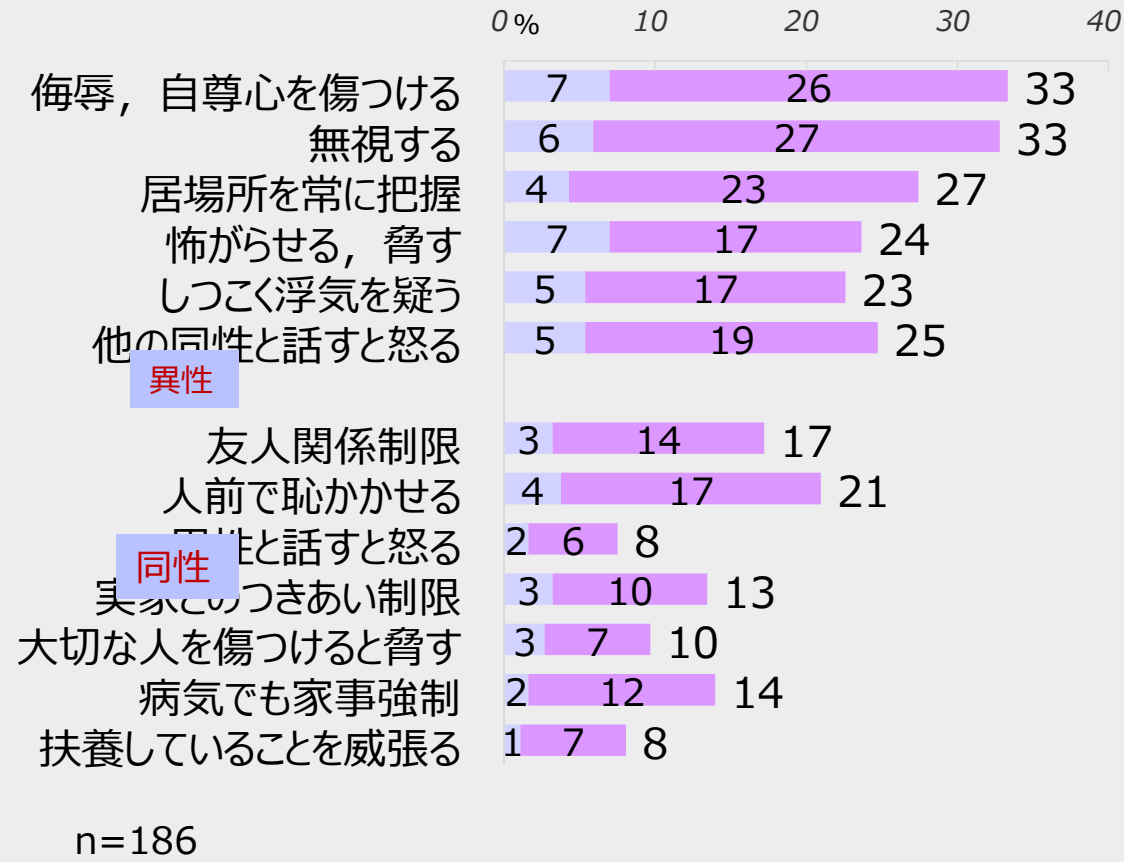
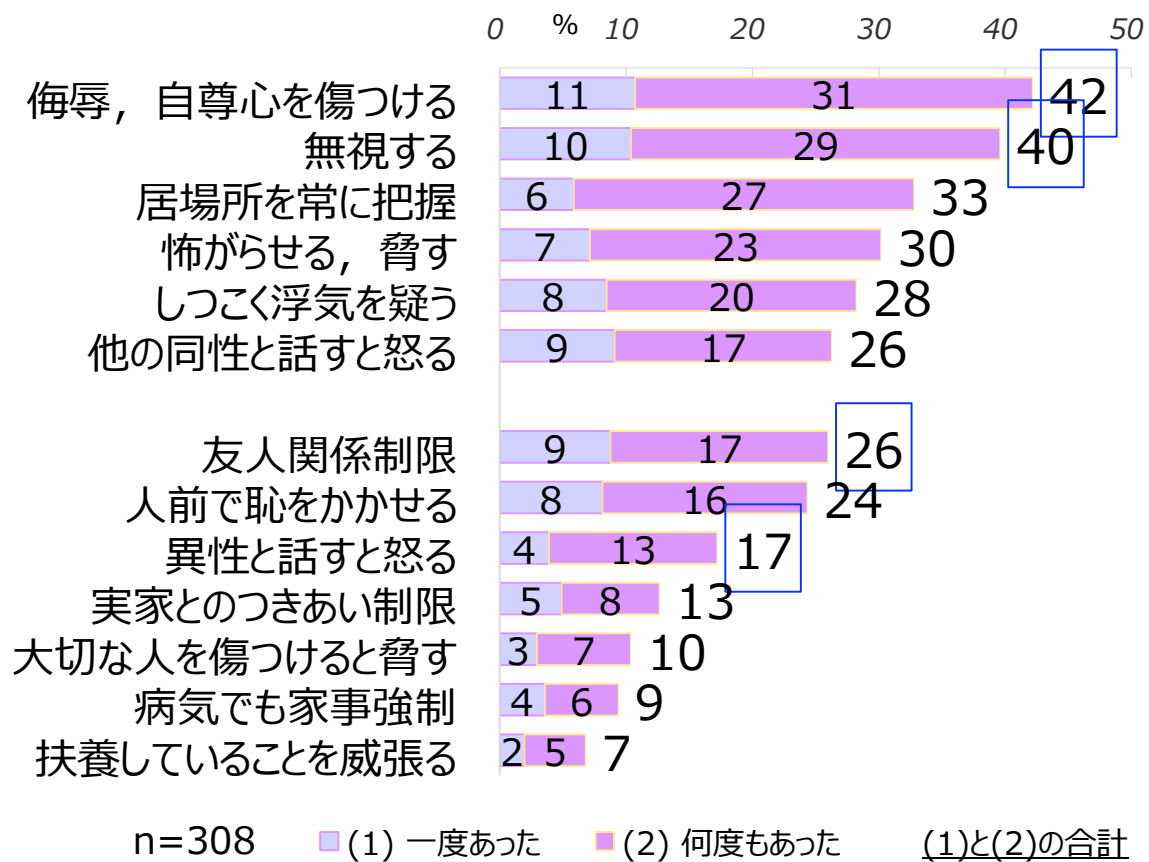
## 【同性パートナー】から：【精神的暴力】



# 性的マイノリティがパートナーから受けた行為

〔同性パートナー〕から

〔異性パートナー〕から



【精神的暴力】は、全般に同性パートナーから、の方が多い  
 性的マイノリティは、パートナーが同性でも異性でも、【精神的暴力】を受けている

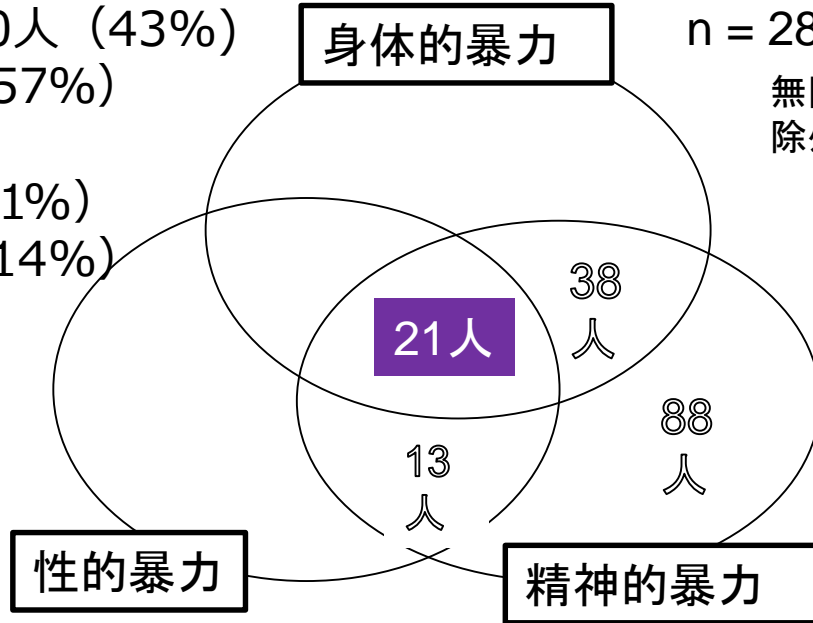
# 【身体的暴力】【性的暴力】【精神的暴力】の重複

【同性パートナー】から「何度もあった」

【異性パートナー】から「何度もあった」

受けていない：120人（43%）  
受けた：160人（57%）

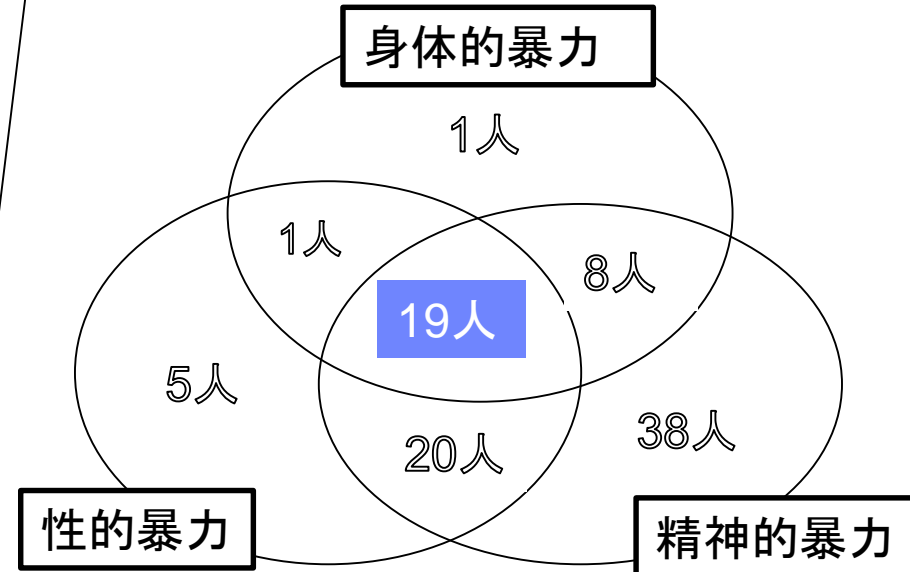
EVのみ：88人（31%）  
EVとPV：38人（14%）



n = 280 | n = 168  
無回答を除外して集計

受けていない：76人（45%）  
受けた：92人（55%）

EVのみ：38人（23%）  
EVとSV：20人（12%）



身体的暴力や性的暴力を受けている人は精神的暴力も受けている

すべての形態の行為を受けた人：

同性からの場合は**8%**（21人）、異性からの場合は**12%**（19人）

# 相談したか否か

(家族、友人、同僚、カウンセラー、医師、弁護士、民間グループ、役所、警察など)

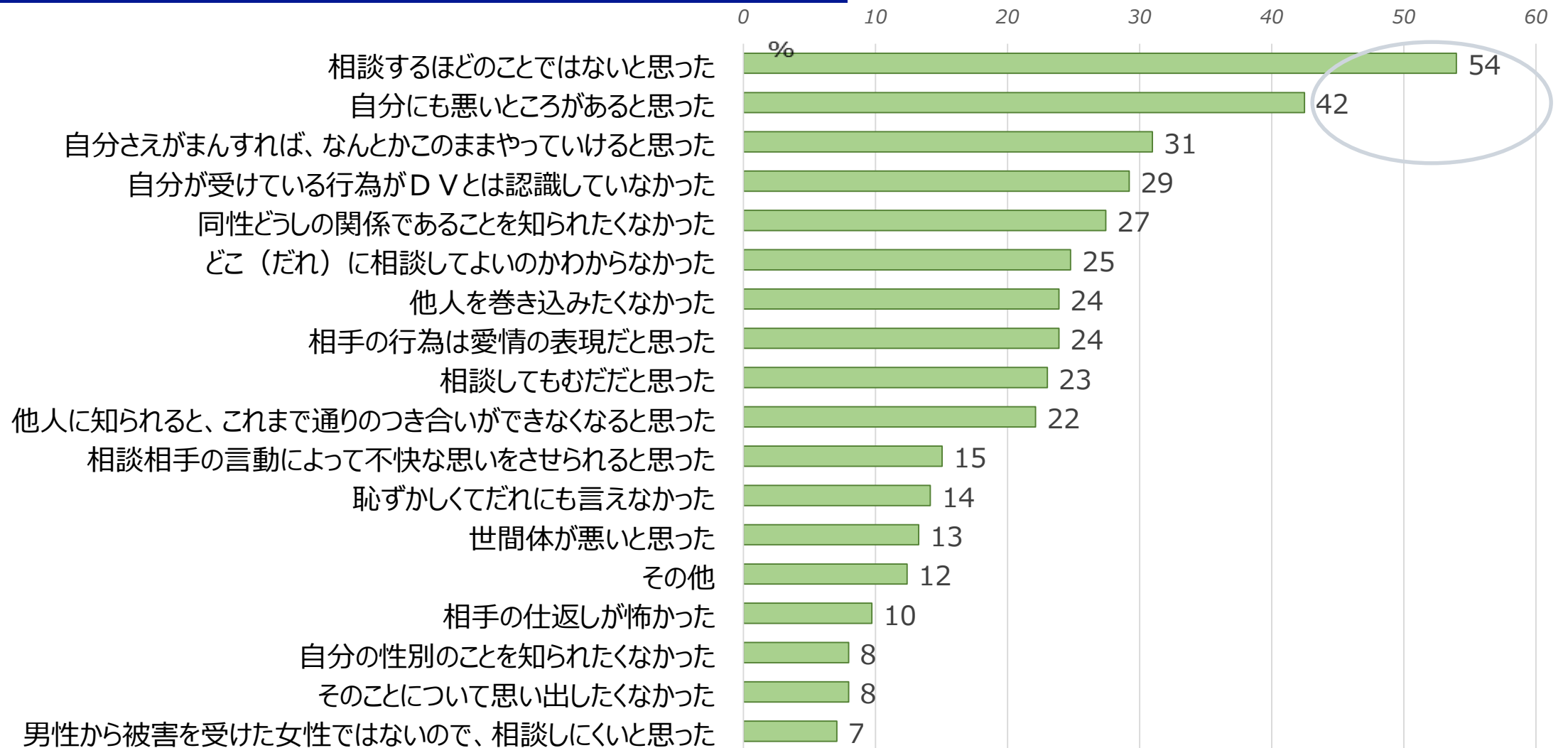
半数以上は、  
誰・どこにも相談していない

	同性パートナーから 受けた		異性パートナーから 受けた	
	n	%	n	%
相談した	63	<b>29.6</b>	25	<b>22.1</b>
相談しなかった	113	53.1	68	60.2
無回答	37	17.4	20	17.7
合計	213	100.0	113	100.0

相談した人は、2割台にとどまる。半数以上は相談していない



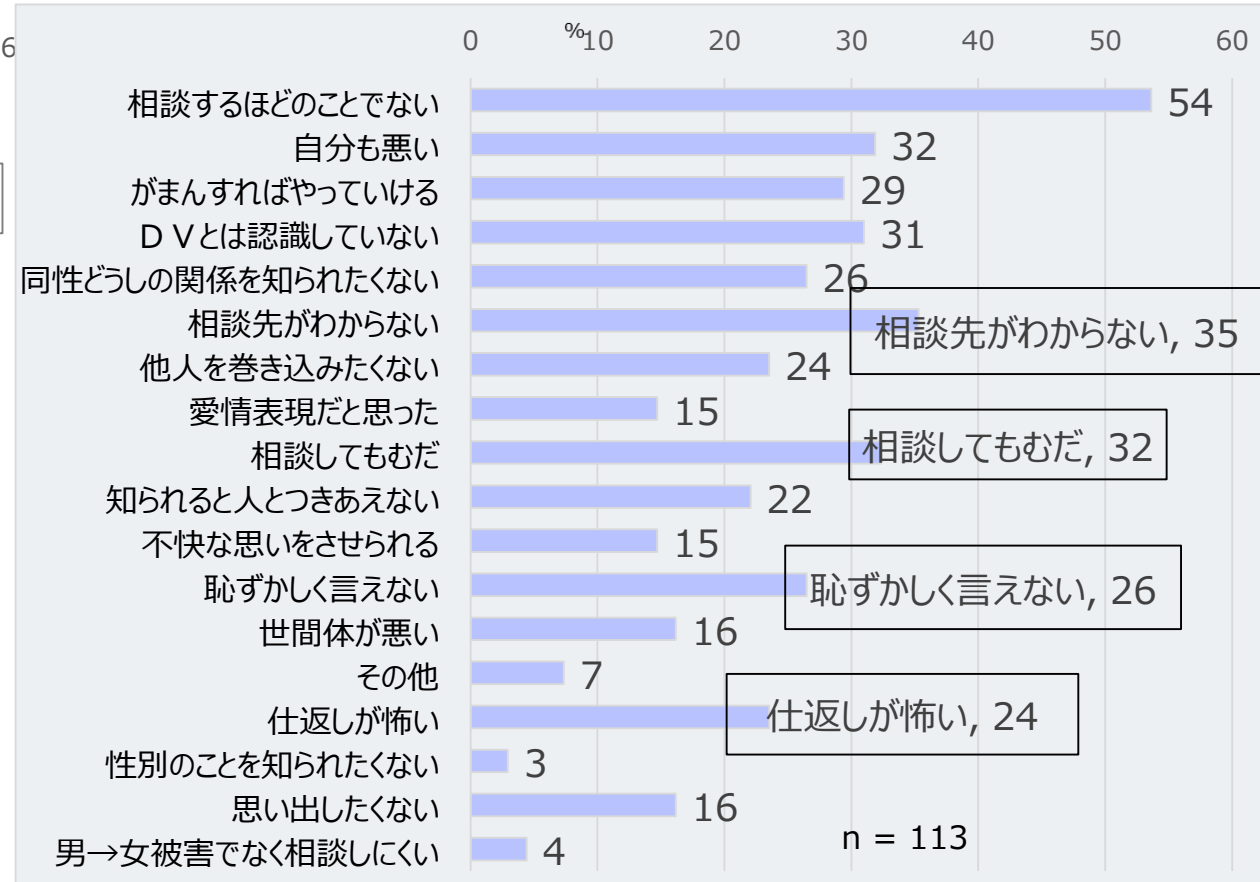
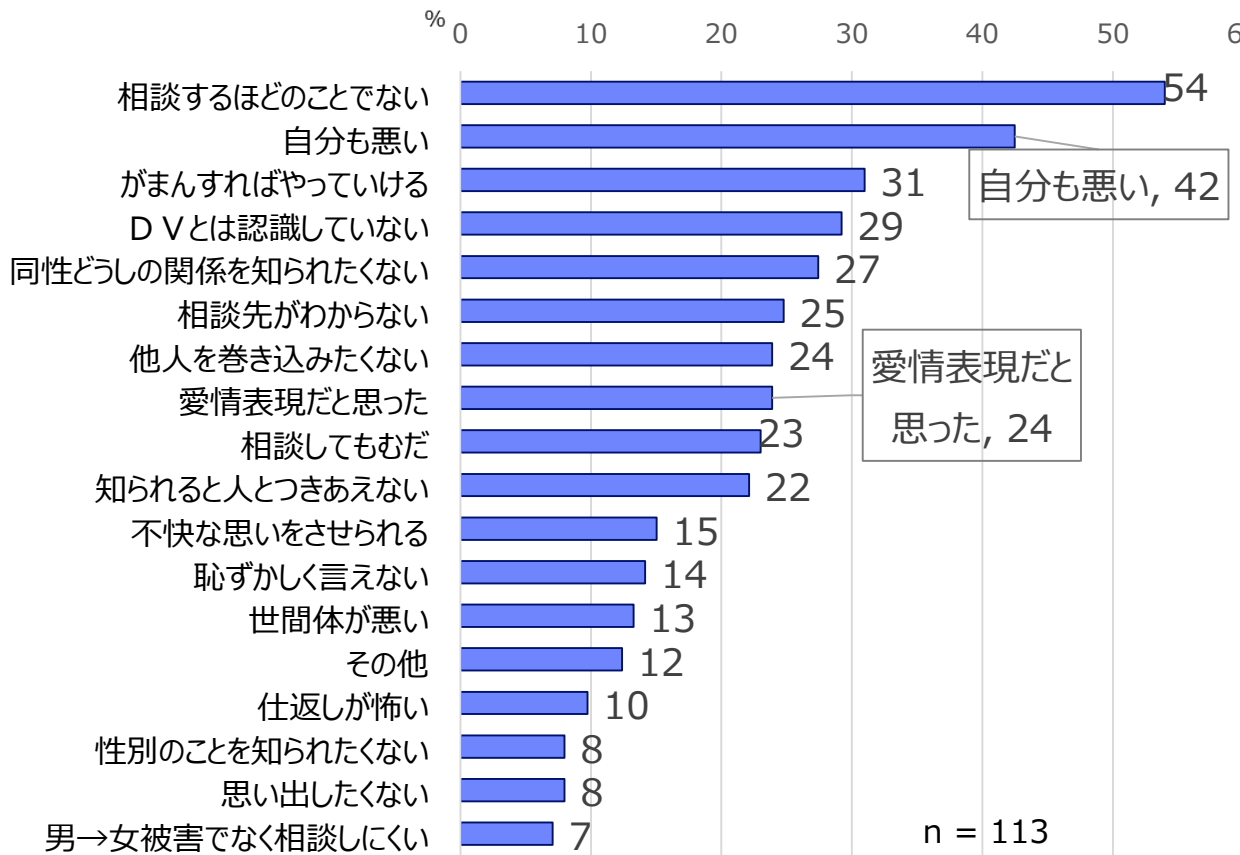
# 性的マイノリティがパートナーから受けた行為について、 相談しなかった理由 (n=113) [同性パートナー] からの場合



# 性的マイノリティがパートナーから受けた行為について、 相談しなかった理由

〔同性パートナー〕からの場合

〔異性パートナー〕からの場合

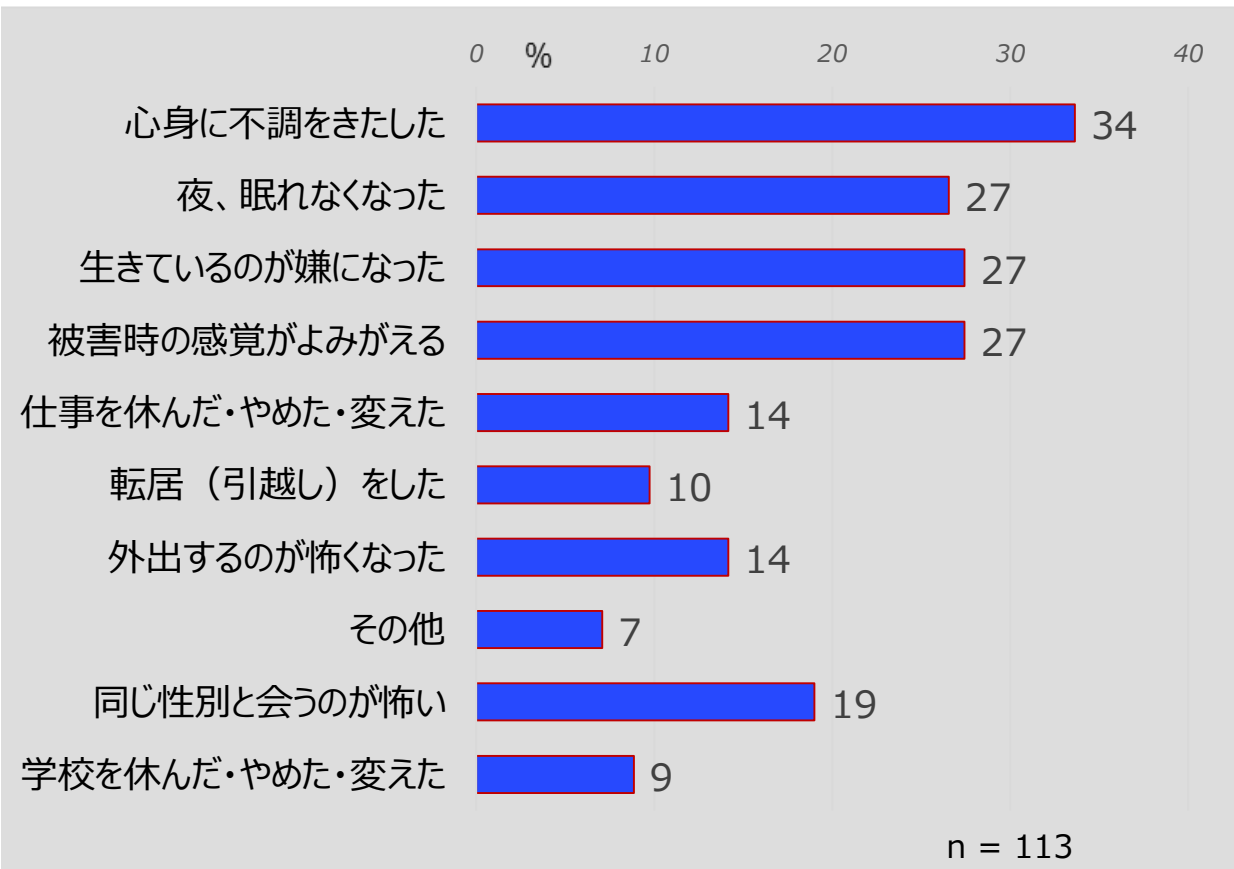
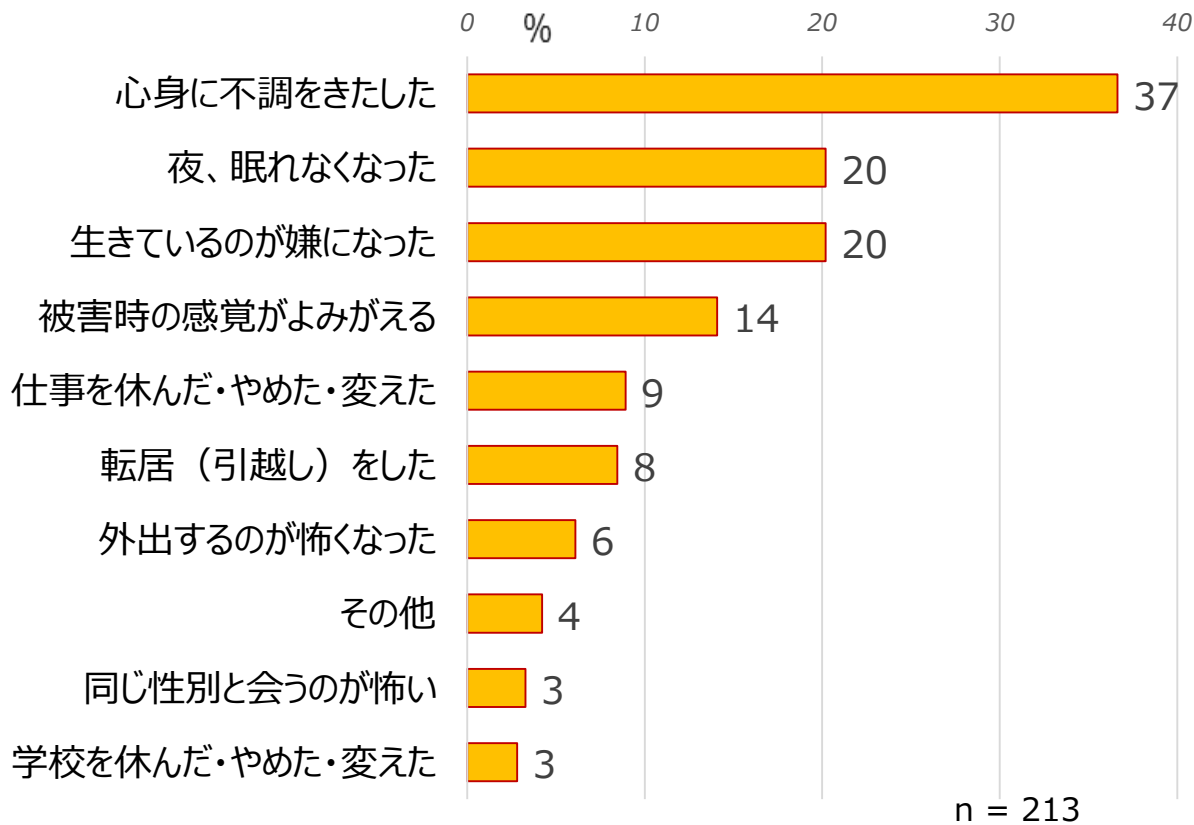


傾向は似ているが、同性に特徴的なもの、異性に特徴的なものもある

# 性的マイノリティがパートナーから受けた行為の影響

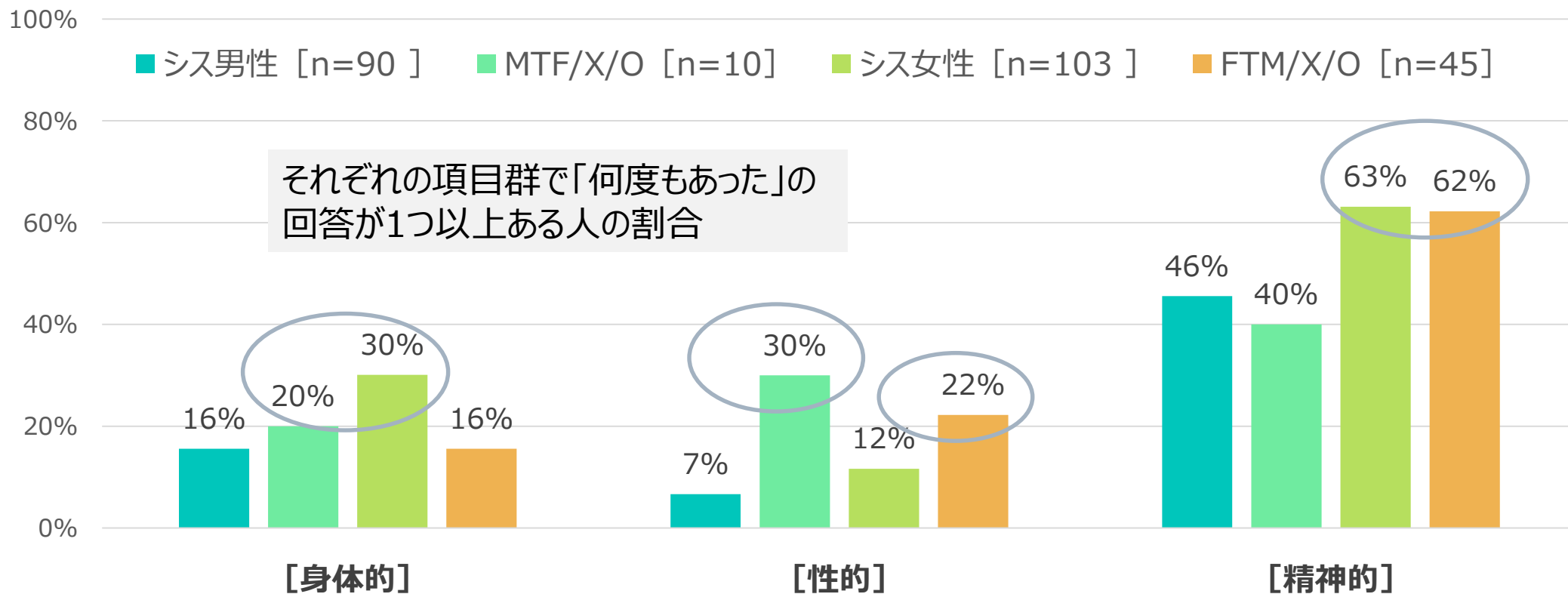
〔同性パートナー〕からの場合

〔異性パートナー〕からの場合



異性パートナーからの場合の方が、影響があった、と答える割合が高い

# 性自認のあり方別にみた、性的マイノリティがパートナーから受けた行為 [同性パートナー] から「何度もあった」



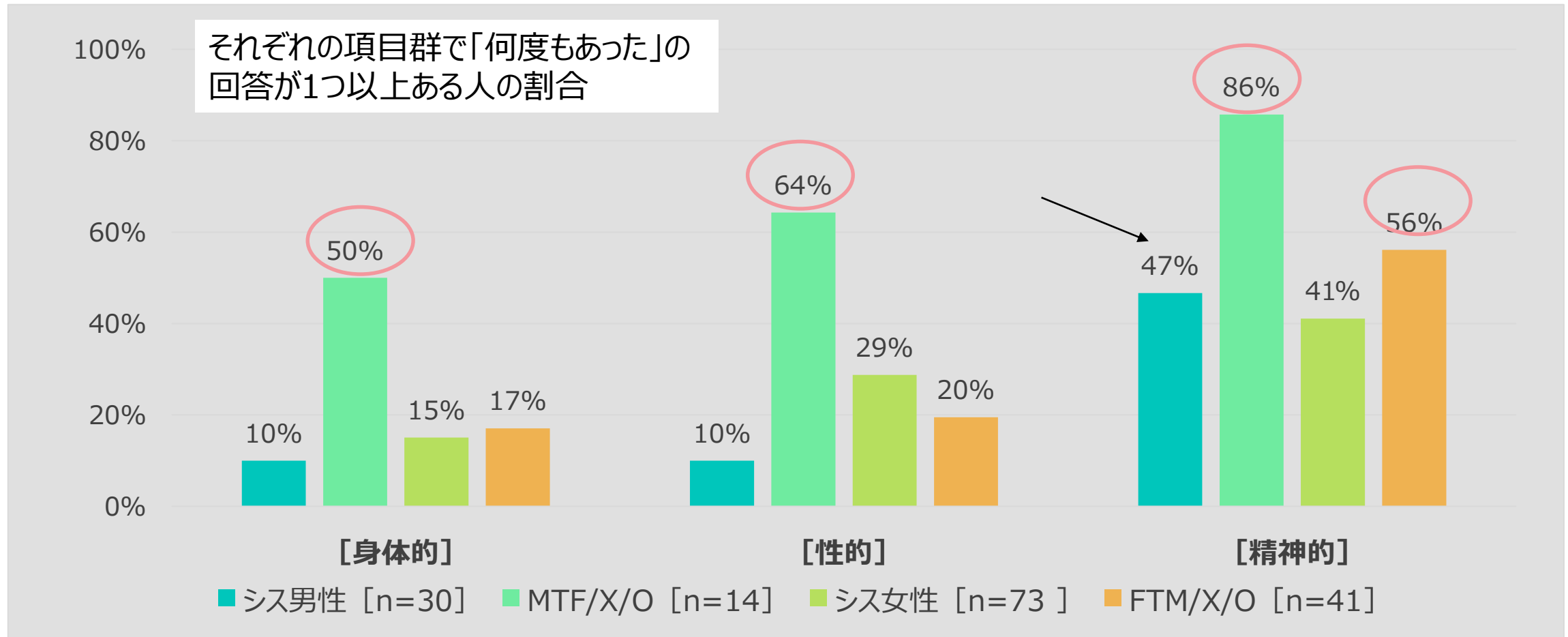
**【身体的暴力】**：もっとも多いーシス女性、トランス女性（自認が女性）

**【性的暴力】**：もっとも多いートランス女性X・トランス男性X（トランス）

**【精神的暴力】**：もっとも多いーシス女性、トランス男性X（出生時女性）

# 性自認のあり方別にみた、性的マイノリティがパートナーから受けた行為









































〔異性パートナー〕から「何度もあった」



シス男性—身体的・性的：もっとも少ない      トランス女性—全てもっとも多い  
精神的：トランス女性×・トランス男性×—多い（トランス女性の回答者数が少ないので、注意）

# 性的マイノリティがパートナーから受けた行為の影響

## 〔同性パートナー〕からの場合

	シス男性 [n=59]	MTF/X/O [n=7]	シス女性 [n=80]	FTM/X/O [n=34]
心身に不調をきたした	 32%	 43%	 41%	 47%
夜、眠れなくなった	 25%	 29%	 20%	 21%
生きているのが嫌になった	 14%	 29%	 30%	 24%
被害時の感覚がよみがえる	 8%	 29%	 20%	 18%
仕事を休んだ・やめた・変えた	 12%	 0%	 11%	 6%
転居（引越し）をした	 8%	 14%	 9%	 9%
外出するのが怖くなった	 7%	 14%	 6%	 6%
その他	 3%	 14%	 3%	 12%
同じ性別と会うのが怖い	 3%	 14%	 3%	 6%
学校を休んだ・やめた・変えた	 2%	 0%	 4%	 6%

シス男性—相対的に「影響」の認識が少ない（報告しない？「男性性」？）

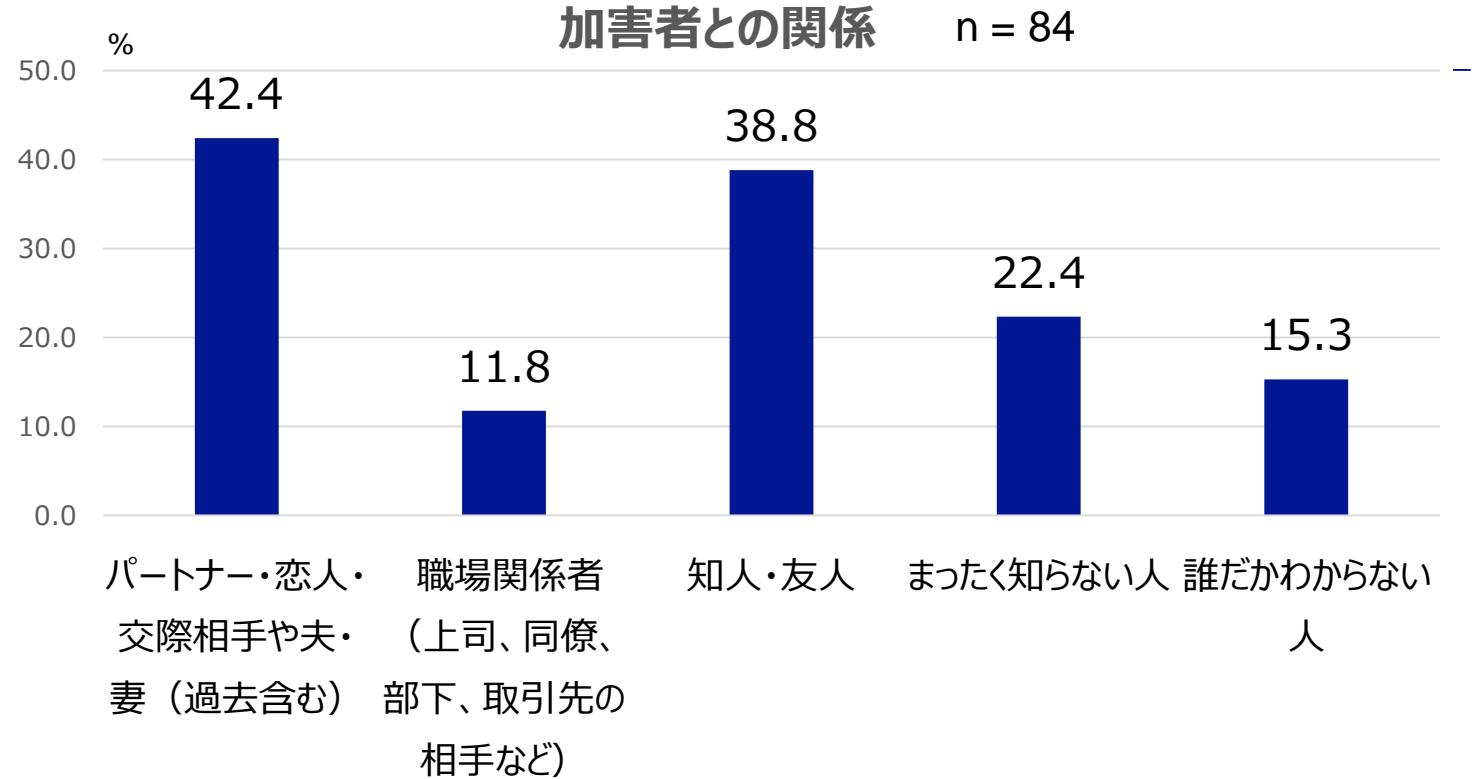
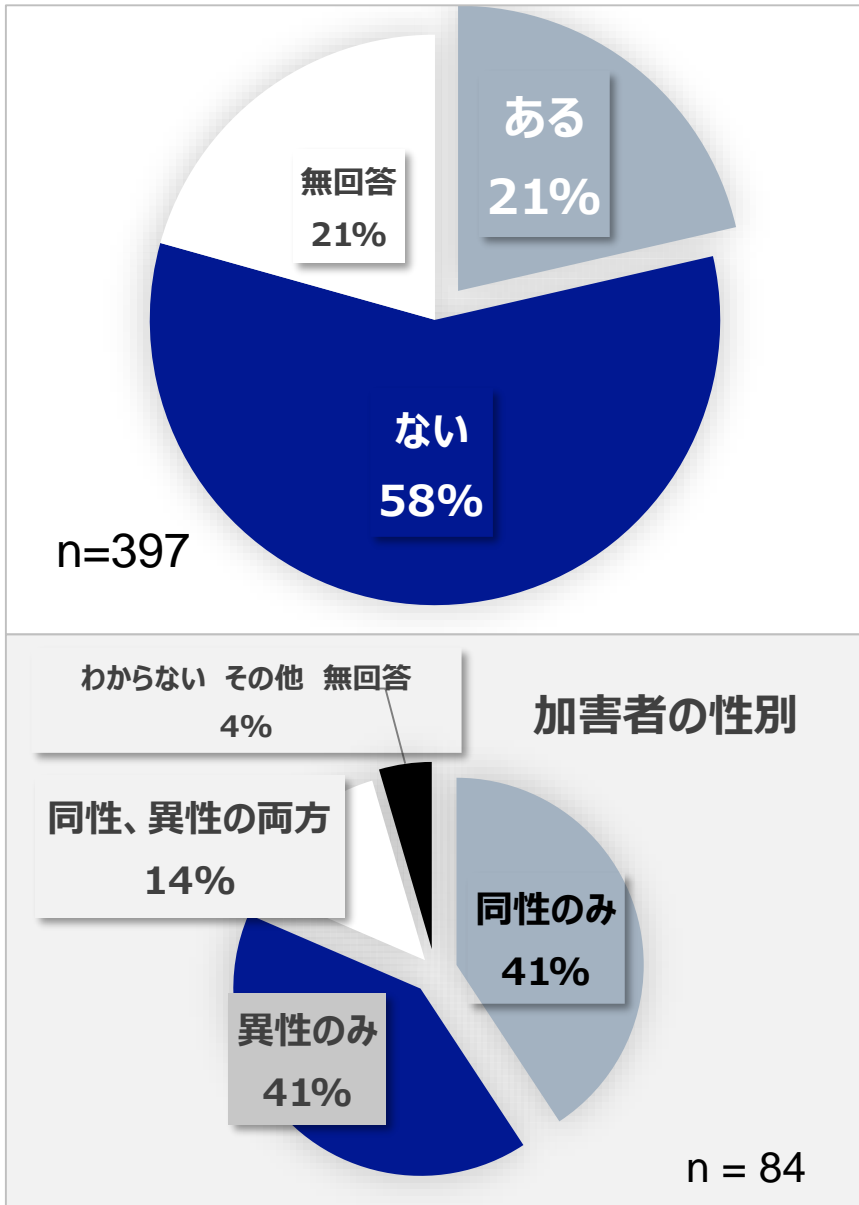
# 性的マイノリティがパートナーから受けた行為の影響

## 〔異性パートナー〕からの場合

	シス男性 [n=15]	MTF/X/O [n=12]	シス女性 [n=47]	FTM/X/O [n=30]
心身に不調をきたした	27%	67%	34%	30%
夜、眠れなくなった	20%	75%	26%	20%
生きているのが嫌になった	13%	58%	34%	20%
被害時の感覚がよみがえる	13%	67%	30%	20%
仕事を休んだ・やめた・変えた	20%	58%	4%	13%
転居（引越し）をした	13%	8%	11%	10%
外出するのが怖くなった	20%	17%	13%	17%
その他	13%	17%	0%	7%
同じ性別と会うのが怖い	20%	58%	17%	13%
学校を休んだ・やめた・変えた	13%	0%	11%	10%

トランス女性X—相対的に「影響」の認識、多い（12人とはいえ・・・）

# 参考：性的マイノリティにおける、ストーカー被害



「相談した」59% (50人)  
「相談しなかった」40% (34人)



# まとめ・考察

---

## 同性パートナーから受けた行為：

- 身体的暴力：「押したり、押しつけたりした」が27%で一番高い割合
- 「首をしめた・しめようとした」、「蹴ったり、引きずり回したり、殴り倒したりした」などの激しい暴力も、回答者の1割から報告されている
  - → 「身体的暴力」でも、特に深刻なものがある、ということが明らかにされた

## 性的マイノリティがパートナーから受ける行為：

- 「同性」パートナーからも、「異性」パートナーからも、ありうる
- 本人の性自認や相手の性別で、受ける行為・頻度、その影響等が異なる可能性は、否定できない

## DVの捉え方、親密性のあり方の見直しの必要性：

- 従来のフェミニスト的なDVへのアプローチだけでは、対応できない可能性もある
    - 相談される側の認識、実際に行方を受けている側の認識（DVと認識するかどうか。。。）
      - 今後の課題：coral projectに参考にする； インタビューを通じて、どこまで探れるか？
-

# この調査の限界

---

## □ 試験的な意味も込めて、実施した

- 冒頭で述べたとおり、「何%」という被害率を出すことを目指すのではなく、実際に性的マイノリティのパートナー間にDV被害がありうることを、その状況を少しでも把握することを目指した。

## □ これまでの経験のみをたずねたため、「あいまい」なものとなっている

- 複数の関係について回答されていることもある→重複した暴力被害がみとめられたが、1つの関係におけるものではないかもしれない
- 同性パートナーからの場合と、異性パートナーからの場合を並べたが、それぞれの時期は不明
- 「関係」、「時期」、「深刻度」等を特定した方法でたずねる調査もある（今後の課題）

## □ オープン型ウェブ調査で行ったため、この調査の情報を得て、回答したい人だけが回答したものである

- 性的マイノリティが経験しているパートナーからの暴力の実態として一般化できるものではない
-